大分大学派遣留学生支援制度（短期研修型）実施報告
(呼吸器・感染症内科学講座)

医学科４年次の研究室配属の一環として、アメリカのペンシルベニア大学に４年生１名が平成 31 年３月 24 日から令和元年６月 15 日の約３ヶ月間短期留学しました。

この留学は大分大学派遣留学支援制度(短期研修型)に採択され、実施されました。

医学科４年次生　名倉理恵さんの感想

はじめの約１ヶ月目までは、テクニシャンの方にそれぞれの実験の方法を教わりながら、基本的な手技を身に着け、研究テーマを絞っていきました。そして、約１ヶ月経過した頃から毎週火曜日に行われているミーティングで英語にて毎週発表を行い、自身にて実験を進めていくようになりました。そして、約２ヶ月目頃から発表に向けて資料の作成を行っていきました。最終ミーティングでは日本で発表するスライドを簡単に英語でラボメンバーに向けて発表しました。

私がいたラボは特発性肺線維症の基礎研究を行っているラボでした。私がいた研究のフロアは呼吸器の研究を行っているラボが集まっているフロアでした。特発性肺線維症だけでも何人もの人が研究を行っており、非常に毎日が刺激的でした。また、ペンシルベニア大学で働いている人たちは非常に熱心で私が疑問に思った小さな疑問でも真剣に考えてくれて、実験をする上でのモチベーションにつながりました。特にラボのボスは時間があまりない中、私のために毎週木曜日に１時間ディスカッションの時間をとってくださって、あまり英語ができなかった私にはとても有り難く、このディスカッションのおかげで外国人の私でもスムーズに実験を進めることができたのではないかと思います。また、毎週のように学会が行われており、色んな方々の研究を聞けたのがとても有意義でした。

私は近くの短期留学者専用の寮のようなところに滞在していたのですが、他の大学の医学部から研究室配属されている人たちと知り合えたのも非常によかったです。他の大学の状況や、実際にアメリカに留学されている人の話も聞くことができて、今後の将来の進路を決める上で非常に参考になりました。

今回の留学は私自身非常に良い経験であったと思います。機会があれば、多くの方にぜひ留学を経験してほしいと思います。

今回の研究室配属では、多くの経験をさせていただき、今後、医師になった後の進路を考えていく上で糧となる機会となりました。ペンシルベニア大学でお世話になった方々、日本で留学するにあたりお世話になった方々に改めて深く感謝申し上げます。

ラボの近くのレストランにて